

令和7年度第1回教育課程編成委員会 外部委員による意見等の集約

1 日時	令和7年(2025年)7月2日(水) 16:00~17:00	
2 会場	北海道医薬専門学校看護館2階視聴覚室	
3 出席者	①学校側：校長、校長代理、各学科長、学科主任、教務主任 ②外部：委員4名	
4 内容	①今年度の各学科の目標、概況、履修科目等の説明	<各学科>
	②昨年度の就職率及び国家試験等の説明	<各学科>
	③各学科の教育課程等に関するご意見・ご提案等	<各外部委員>
	④各種情報の提供(業界の情報・求人情報等)	<各外部委員>
	⑤その他、教育課程に係る意見交換	

外部委員の方々の主なご意見等

①今年度の各学科の目標、概況、履修科目等について
<p>入学者数が定員充足率から学校のさらなる対外アピールが必要と思う。たとえば毎回のオープンキャンパスだけでいいものか、さらなる検討が必要。科の名称が、薬業医療事務と続きますが、医療事務を先に持ってきて、「医療事務薬業学科」とするのも一考かと思う。学科が統合され、あらゆる面から教育の充実に向けて取り組んでいることがわかった。診療放射線学科の臨床実習については、学生数が増えたことによる施設の確保が喫緊の課題であるため、早急に対応する必要があると思う。看護学科では電子テキストが導入されたが、経験者がいたため比較的スムーズにトラブルなくできた。今後のICT化は模擬電子カルテを検討しているようだが、学生の学習ニーズを踏まえて具現化できるとよいと思う。社会性や社会人基礎力を養う外部との接点や自分たちで企画する機会が増えればよいと考える。</p>
②昨年度の就職率及び国家試験等について
<p>就職率、国試はいつもながら高い達成率のように思う。調剤事務管理士はこれからも需要があると思うので、100%を目指してほしい。資格取得、就職率、国試合格率は学校の強いアピールであることを改めて心してほしいと考える。看護師の国家試験合格率は高いので維持できるとよいと思う。対国試の他に就職試験を早く受けることができるような仕組みが必要。登録販売者100%は素晴らしい。是非、継続していただきたい。</p>
③各種情報の提供(業界の情報・求人情報等)
<p>各自治体をはじめ民間の病院はどこも経営状態がよろしくなく、病床数削減、人員削減が進められている。学生には、たとえ行きたい医療機関に就職がかなわなくても、一旦どこかに籍を置き、キャリアアップを目指せるような指導をしてほしいと考える。就職活動に関しては、関東圏では4月には既に実施され、北海道も早まってきている。学生の実習経験が少ないままだと就職先の選択に困難さが生じており、学校の支援が必要になっている。ここ数年で変化のあった働き方改革や告示研修による技師業務の拡大に関するものの就職増は落ち着いてきたようだ。今後は北海道・特に札幌における就職数は期待できない(なので少なくとも早く就職活動ができるように支援が必要)。登録販売者人材の確保へ年々厳しくなっている。合格者の輩出をお願いしたい。</p>
④その他、教育課程に係る意見交換
<p>企業連携は良い方向と考える。連携できる医療機関、企業をどんどん増やすことで、まもなく開校30年になる医薬専門学校のアピールにもなると思う。18歳人口減少に伴い、学生確保が課題である。学校の強みを生かしたアピールが今後も必要となってきている。本校は、3学科共同でのオープンスクールを開催し、医療職の魅力を発信されている。当校も含め、良い取り組みは参考にさせていただきたい。</p>